

新年にあたって

湘南コンサートの会会長 小笠原 康二

皆さま明けましておめでとうございます。

「湘南コンサートの会」は発足から20年以上になりましたが、中島良能氏をはじめ役員の方々はボランティアでこの湘南の地に音楽の文化を根づかせ、若手音楽家を育て、その活躍の場を創造するのを目標に努めてまいりました。

音楽は人が人間に与え給うた唯一のもので、病院でも心の病には音楽をもってしないと治療できない科目もあり、日常の娯楽とともに、心のやすらぎを得るもので人間が生ける上には不可欠なものと思います。このような中、20年の歴史を持つ当会は今回運営委員を一新し、エールアンサンブルの若手に多く入って頂きました。シニア中心の会員とともに若い会員も増え、ますます活気ある会にしていきたいと思ひます。

この度私は会長をお引き受けしましたが、私はプロの音楽家でもなく、単なる音楽好きに過ぎませんが、高齢者は全国主婦ランキングで1位となったこと湘南に住める幸せとプライドを持ち、後世に音楽文化を継承し

て行くことが使命ですので、元気な間に大好きな音楽を通じて運営面で会員皆さまのお役に立つことが出来れば有り難いことと感謝しましたそうなりたいと念じています。

現在会員数は150前後ですが、皆さまの足の便を考えた藤沢駅南口の「リラホール」の収容人員などをご考慮すると200名程度の会員数が維持できれば理想的で、皆さまがご満足頂ける演奏や運営が可能と思ひます。

当会はオペラや大室内楽など、我が国有数の音響を誇るリラホールの響きを存分に活かし、クラシックを地元で気楽に楽しめるような企画でこれまで皆様のご支持を頂いてきました。

皆さまにおかれましてもお友達などお誘ひ頂き、この会を発展させ、いざという時も相談相手になるようなお友達も増やし、お互いに幸せを享受したいものと思ひております。どうぞ皆様のお力をお貸し下さり共に会の運営にご協力下さいませ幸いです。

小笠原 康二

新湘南コンサートの会組織図

会長	小笠原康二	顧問	堀江冬子
事務局長	廣田邦夫	顧問	渡辺久仁子
編集アドバイザー	下村洋史		
公演企画	石塚一弥		
	坪田亮子		
	中島良能		
企画アドバイザー	田辺昭一		
監査			
評議員	小沢喜久子	小島英雄	外崎祥子
	山本啓子	山田節子	飯野裕章
	田辺昭一	下村洋史	青木伸之

事務局：藤沢市藤沢545番地159 どちらえSTUDIO内
電話番号：0466-90-5020



10月例会 弦楽六重奏を聴く

10月例会コンサートは弦楽三重奏と弦楽六重奏を楽しましました。

ヴァイオリン鈴木まどか・石塚千恵、ヴィオラ坪田亮子・堀江冬子、チェロ中田有・福井綾各氏のいずれも湘南エールアンサンブルを中心として活躍中の演奏者たちです。

プログラムはまず、シューベルトの弦楽三重奏第1番で、第2楽章が断章のため、第1楽章のみの演奏となりました。続いてベートーヴェンの弦楽三重奏のためのセレナードは全7楽章のうち1、2、3、5、7楽章を抜粋して演奏され、オープニングと終局はマーチとなっておりました。

後半は弦楽六重奏を堪能しました。名曲中の名曲として知られているシューベルトの浄夜が演奏され、より重厚な響きをリラホールに響き渡らせました。今例会も会場の皆さんを魅了する演奏会で好評のうちに幕を閉じました。

CADENZA

ヴェルディ作曲 歌劇「イル・トロヴァトーレ」ハイライト 解説 長崎 達明(会員)

第1幕(決闘)

第2場 アリアフェリア 城内の中庭

舞台は15世紀のスペイン・アラゴン地方。領主ルナ伯爵(竹村 洋 B)は、アラゴン妃に仕える女官レオノーラ(早河 明子 S)に想いを寄せているが、レオノーラはジプシー女アズチーナ(戸戸 裕子 Ms)の子で吟遊詩人のマンリーコ(藤又 晃 T)と恋仲にあった。ある夜、庭でルナ伯爵がレオノーラへの愛を告白している所へ、マンリーコの歌声が聞こえてくる。それを耳にしたレオノーラは喜んで庭に降りてくるが、暗闇の中、間違えてルナ伯爵に抱きついてしまう。それを見たマンリーコは「不実者めと口走り、大逆いんに気が付いたレオノーラはマンリーコに詫言ひ、改めて愛を告げる。一方、伯爵は屈辱と嫉妬で怒りに燃えるのであった。(三重唱:嫉妬の炎がめらめらと)

伯爵とマンリーコは決闘となり、レオノーラは氣を失って倒れる。

第2幕(ジプシーの女)

第1場 ジプシーたちの洞穴

燃え盛る焚火の炎を見ていたアズチーナは、ジプシーの老婆が火あぶりにされた話をする。

[炎は燃えて]

マンリーコの求めに応じて、アズチーナは更に話を続ける。母親が先代のルナ伯爵によって火あぶりの刑にされた事、その復讐に娘の自分が伯爵の子供をさらって火中に投げ込んだ事、ところが強が暴乱してって、投げ込んだのは自分の息子の方だった事などを語って聞かせる。

[重い鎖に繋がれて]

第2場 修道院の前

ルナ伯爵はレオノーラを讃え、恋する想いを歌う。

[君のほほえみ]

そして、マンリーコが戦死したと思ひ込んで修道院に入るうとしたレオノーラの前にはちかはだかる。

しかし、そこへ死んだはずのマンリーコが軍兵を率いて現れレオノーラを奪い返す。

第3幕(ジプシーの子)

第2場 カステルロール城内の一室

マンリーコはレオノーラと再会を喜び、しばし幸せな時を過ごす。

[ああ、あなたこそ私の恋人]

そこへ、アズチーナがルナ伯爵に捕えられて火あぶりにされるという知らせが入る。

マンリーコは怒りを爆発させ、母を救いに飛び出していく。

[見よ、恐ろしい炎を]

第4幕(処刑)

第1場 アリアフェリア城内の一角、塔の下

戦いはルナ伯爵側の勝利に終わり、マンリーコは塔内の牢に幽閉されている。怒りに城内に飛び込んだレオノーラは、マンリーコへの熱い想いを歌う。

[恋はバラ色の翼にのって] そして、その場に現れたルナ伯爵にマンリーコの命乞いをする。頑として承知しない伯爵に、必死のレオノーラは最後の手段として、自分の身を捧げようとして出る。

喜んだ伯爵はマンリーコの助命を許可する。しかし、レオノーラは隙を見て隠し持った毒薬を仰ぐ。

[二重唱:その声はあなたでしたか]

第2場 牢の中

アズチーナとマンリーコは鎖につながれ、処刑を待っている。2人は故郷への思い出を語りながら慰めあう。

[二重唱:我らの山へ]

そこへレオノーラが入ってきて、驚き喜ぶマンリーコに許しがた事告げる。マンリーコは一転して、「代償として伯爵に身を売ったのか」と激しくレオノーラをなじる。毒がまわってきたレオノーラは、「他人のものになって生きるより、あなたの為死にます。」と誓って息絶える。

事の次第を理解したマンリーコは深く後悔し悲嘆にくれる。そこへルナ伯爵が現われ、レオノーラに騙された事を知って激怒し、すぐさまマンリーコを処刑して、その様子をアズチーナへ見せる。一瞬たりじろいだアズチーナだったが、次の瞬間「あれはお前の弟だ。お母さん復讐を果たしたよ!」と叫んで息絶える。

伯爵は「生き残ったのは自分だけか…」と果然と立ち尽くす。

